緑丘

本紙一部 金六錢
一ケ年臨時特配料金[illegible]
編輯兼發行人 横田弘之
印刷人 永井義夫
發行所 小樽高等商業學校 緑丘[illegible]

論説　知と徳

一般に知と徳といふことは、屢々別個に切離されて考へられてゐた。知か徳かといふ問題が提出されたこともあつたが、一般その問題は[illegible]な概念を打するものであらうか。

知か徳かと問ふ時は、何れか一方をよく根本的に、本質的に考へを進めて行くであらう。然しながら知か徳かといふ問題の仕方は正當でなく、抽象的であるといふ誹を免れない。蓋し知識の存在の根底にはそれを産み出す歴史的生命があり、又之を批判し、研究し、探究せしめる使命があり、人間の問題、人格の問題といふことに、既に知が存在するのを知るのである。

かやうにして、知と徳とは二律的、二者擇一的なものでなく同時的な存在、或ひはより歴史的生命を見るに於ては、人間の全體性、人間性の相互關係に[illegible]ものである。人間の全體性を[illegible]することに依り、抽象的なる知か徳かの問題を解する時は、知そのもの、徳そのものと切離された觀念は成立するものではない。だから知識そのものの教育といふことは、人間の主體性の抽象的觀念であり、人間の主體性を忘却し、單に客觀的對象のみに止まつた謬りに過ぎない。

具體的に人倫的組織を觀察してみるならば、新しい人倫的關係に於て研究するのでなければ出來ない。知識を求める行爲が、それを極め、完成して行く事が、人倫的組織に於て其處に付けられそこから、出發するのである。

誠の知識が實踐から湧き出されるものであることを考へれば、知即ち徳の關係は自明の事である。知識を求めんが爲に研究努力するといふことが、その過程に於て、人々の意志力を鍛ひ、直ちに實踐的、行爲的要求を結ばせることは、始めて自ら徳なる事實である。

些細な事實に對する知識についてみても、歴史的生命に關聯して考察して行くならば、[illegible]して行くのである。眞實に知識を探求し、實踐を踏む者は、必然的に人倫的組織の實踐的世界に進み行くのである。知識と徳とを分離した關係に於て、[illegible]ものである。

知も徳も歴史的生命から[illegible]事は出來ないのである。知識を自己の血となし、肉となすことは、[illegible]するものである。[illegible]

知を陶冶し、徳は知を維持し、育て上げるのである。ひとり知のみならず、一切の知識は、それを單に抽象的に取扱はざる限りに於て、恐らく具體的な統一的世界へ通じてゐるのである。矛盾せる限りに見えるも、その内的必然性を讀み取る時には、同一的なものであることを知るのである。

即ち知と徳とは相互媒介の關係に於り、かくして知が知自らに深まり行き、自己の統を眺むる限りの世界は擴大され、と同時に徳は又彼に發展するに至るであらう。

今日學者が、理論と實踐といふことを屢々唱へるが、以上の様な立場に立つならば、解決は明かとなるのではなからうか。

理論と實踐といふことも、そして又相互の關係から見ると、相互媒介に於て回想して見ると、相互關係の統一に立つてゐるものであり、知と徳との論理は同一の原理の存することを知る。我々は凡ゆる現象、事態の統一的把握を[illegible]、具體的に認識し、思惟し、把握する[illegible]ばならぬ。

春を待ちつつ……
文化班の胎動活潑
緑丘外語新春の催し

歴史哲學研究會

[illegible]を掲げての戰ひ、自存自衞の戰ひは、内的、外的の諸問題を含み、各分野に亙つて解決しなければならぬ。國家も文化も、思想もその凡ゆる力を發揮して、結實せしめねばならない。[illegible]も我々に存するのである。

この時我が文化班は、その貴き一翼として、偉大なる[illegible]を開始することになり、歴史研究を通じて、其の時代を研究するといふことになつてゐる。

現下、世界史的轉換を叫ばれてゐる折しも、我が國を指導とせる最高の世界は、嘗て見ざる、偉大な發展を遂げ、我々學生も、現實の動向には、關心以上のものを有し、決意を凝めてゐる。そして時代が盛なれば盛なる程、歴史の問題、再認識は最も重要な事柄の一つである。

外語班

我が外語班は、傳統ある研究を重ねて來た。今又新しく、語學を中心として、學生は正に研究に邁進しつゝある。

語學は文化を綜合せしめる一翼として、極めて重大である。殊に我が國が世界の舞臺に新しき指導力を見せてゐる今日、その意義は深い。[illegible]我が國の發展を大いに研究してゐるといふことは、發展すべき[illegible]であり、

決して我々も怠慢の[illegible]を研究することは、缺くべからざる事である。

又一方[illegible]大東亞共榮圈に於ける[illegible]を保持しつゝ、各國の傳統を理解し、他方に文化思想を理解し[illegible]することが必要である。

それ故、各國の諸事を[illegible]的に研究し、[illegible]されねばならぬ。我が外語班が、此の[illegible]のもと、[illegible]に立つたことは、意義深い事である。

吾がスキー班
中原に駒を進む
―神宮大會敢闘譜―

猪野、池村、鳥野、藤野、砂川、荻野、[illegible]第十三回明治神宮國民錬成大會スキー競技大會に本校スキー班は五名の選手を送つたのである。一行は[illegible]の下に一月三十日、小樽を發つて[illegible]、ケーブルカー、バス等にて大會場たる[illegible]に着いた。かくて、直ちに練習の機會を得た。[illegible]

[illegible]なる大會場[illegible]のコースは、一周一千五百米の[illegible]十米位の[illegible]であつた。[illegible]

第二日[illegible]、[illegible]的に[illegible]を擧行せられた。[illegible]

對寮スキー大會
二寮遂に覇成る

[illegible]各寮對抗スキー大會[illegible]

春季休暇決定

本學期試驗を通じての春季休暇は學年短縮の折から昨年と較べ大幅の短縮が行はれ、三月十八日より四月四日迄の十八日間と決定された。授業は四月五日より開始される。

待望のグライダー
愈々本校に到着

[illegible]

大陸奥地者二十五名

[illegible]

學生論壇
若さと愛

われわれの眼前は、今や偉大なる[illegible]の中にある。凡てが戰爭と言ふ[illegible]で見られねばならない。

同時に、恐らく若さの要求されてゐる秋である。恐らく今日程この要求のなされた時代は無かつたであらう。それは、この國家が先發にも未曾有のものだからである。このことは若さが[illegible]することによりて得るのである。

[illegible]

われわれは個人のみの生活は、許されない。自己以外の[illegible]、自己を[illegible]となるものにしなければならぬ。

[illegible]（カアペンタ）

紀元節

二月十一日紀元の佳節は定刻八時四十分より[illegible]に於て[illegible]、同十時より[illegible]が擧行された。

滿支民族異動を求めて
南亮三郎教授大陸の途へ
―期して待つその勞績―

マルサス學の權威として新たなる民族人口理論への抱負の下、南亮三郎教授は去る二十日八時四十一分の列車にて小樽を發たれた。之に先立ち記者は十九日夜[illegible]なる教授宅をお訪ねしてその抱負を聽くべき機會を得た。[illegible]久しくしてゐられた先生は快く記者を迎へられ、赤々と燃えるストーヴを前に大略次の如く語られた。

「歴史が大きな轉機を示す時、其處には必ず民族の異動が加へられます。在來の歴史觀とはその立場を異にした新しい史觀から[illegible]御承知の如くマルサスの原理は[illegible]現代の情勢と相容れざるものがありますが、私はこれに新らしい現實を説明し得る様な意味を附與し、以てマルサスを現代の人口理論に生かして行く企圖であります。この意味に於て私は從來のものとは趣を異にし[illegible]。既にその緒は成つてをります。目下漸く序文を脱稿しました。これを契機として[illegible]民族の移動狀態を實地に就て研究するのが今回の私の滿支旅行の任務であります」

以下教授の旅行日程を擧ぐれば二月二十六日奉天出發、[illegible]、三月十日奉天（陸軍記念日）、[illegible]、北京、これより[illegible]、上海の順である。

高橋本校教授
東亞スキー大會に活躍

我がスキー界の權威高橋教授は、全國學徒スキー大會、[illegible]として[illegible]に出場せられた[illegible]。

[illegible]

宮澤教授
榮譽に輝く

[illegible]

叙任及辭令

二月一日
小樽高等商業學校教授　堀　[illegible]
叙高等官七等
内閣
叙從七位　花村　哲夫
同　佐々木一義
叙正七位　岡本　理一
二月十日　宮内省
[illegible]　佐藤政太郎
二月十日　本校
任小樽高等商業學校教授
叙高等官七等　宮田　光一
内閣

嵯峨大佐統監の下
朔北の皇軍將兵を髣髴せしめ
全校野外スキー教練行はる

スキーの團體的重要性の[illegible]れてゐる今日、我校にあつても全校生徒の參加の下にスキーによる野外演習を實施したることは[illegible]

二月十六日、[illegible]は、スキー[illegible]、[illegible]大佐統監の下に[illegible]

[illegible]

乞ふ！食堂への
積極的協力を！

[illegible]

狹き門は
諸君を待つ

[illegible]

（入試願書激増）

昭和十八年度入學試驗[illegible]、[illegible]二月二十二日現在[illegible]、[illegible]六百六十八名[illegible]九百九十三名を數へるに至つた。

新刊書籍雜誌
豊富に取揃へてあります。
御註文は特に迅速に取扱ます。
丸：文：書：店
花園町大通（電）3863

會員異動報告

○勤先 △住所（十月十五日締切會員調係ノ異動ハ、此ノ欄ヲ以テ發表セズ）
（自昭和十八年一月二十日 至昭和十八年二月十五日）

廣島田博芳　昭13
宮内勇雄　昭12
森山正夫　大13
牧野榮二　昭12
三浦仁三郎　昭5
吉川三男　昭7
西野杏一郎　大15
藤谷忠雄　大9
菅原貞雄　昭7
吉賀正雄　大12
山崎均　昭17
留浦泰雄　昭4
佐藤博夫　大7
森本功　昭16
梶谷稔　昭17
中村信夫　大10
川田稔　昭5
杉山秀雄　昭3
尾崎瑞穂（舊姓[illegible]）　昭12
賀川暉雄　昭13
川口晉　昭17
加藤朝雄　昭7
紗野森三　昭11
吉谷信勝　昭15
安永茂夫　昭17

○大分縣南海部郡上野村株式會社[illegible]
△同上
○奉天市鐵道總局建設局計畫課
△門司市大里北方町四ノ四九七九
○室蘭市[illegible]
△函館市東一番丁九五
○日本製鋼所[illegible]
○川崎市京町二丁目四八
○作州[illegible]
○札幌市[illegible]
△天津[illegible]
○東京市[illegible]
△札幌市北[illegible]
○京城府[illegible]
△樺太[illegible]
△札幌市南十六條西[illegible]
○京都市[illegible]
△名古屋市[illegible]
○北見國[illegible]
△小樽市[illegible]
[illegible]

末村　四郎　昭16
白岡柏三郎　大7
菊池啓次郎　昭17
佐川信夫　昭17
佐藤打雄　昭17
磯澤正義　8
青木勇夫　昭2
伊藤平代太郎　昭15
佐藤猛平　昭14
小園敏郎　昭13
久保修雄　昭14
金津良三　昭16
中島利一　昭17
今村三郎　昭10
高木久義　昭15
宗像雄一　昭10
石川龍之輔　昭10
清水祐助　昭11
成井三次　大12
佐藤　火　5
秋山富義　大11
石岡秀一郎　昭8
田村小三郎　大4
二村　竹　昭17

○大阪市北區[illegible]
△東京市[illegible]
○小樽市[illegible]
○札幌市北[illegible]
○大阪市北區中之島[illegible]
△日本[illegible]
△東京府北多摩郡[illegible]
[illegible]

會員中（住所、勤先）御異動有る場合は御手數乍ら當緑丘會宛御通知願ひます。
社團法人緑丘會

緑丘會欄

緑丘會小樽支部
新春特別例會

緑丘會小樽支部新春特別例會は一月廿二日午後五時半より[illegible]ホテルにて開催、當日は[illegible]、小樽支部長[illegible]氏の[illegible]で三井物産[illegible]大東亞戰爭[illegible]一般的[illegible]を聽く機會を與へられた。

集まる緑丘人は小林教授を始め、[illegible]、白井、[illegible]、[illegible]の諸氏以下二十六名、[illegible]に一同[illegible]を圍み會食の後、[illegible]長の挨拶に引き續き[illegible]氏の講演に移る。同氏は昨年ジャヤに[illegible]、昭和十六年十二月八日大東亞戰爭勃發當日の「我が軍は[illegible]」の[illegible]に入れり」の[illegible]を[illegible]に於て聽かれたる時の感激より、[illegible]

[illegible]

（[illegible]）

三教授
記念品代は

事務整理上二月末日を持ちまして締切ります。
緑丘會

會費領收

三圓也
川島正太郎　岡本光夫
徳田友義　小山善見
増田幹夫　久保伸雄
松本信男　北村正利

訃報

前田義朗（大十二）
小林退一（大十三）
本間龍三郎（昭八）戰病死
井上市太郎（昭十）
中村[illegible]（昭十五）戰死

學術研究基金報告

自昭和十七年一月十六日
至同十八年二月十五日

	申込口數	申込金額	拂込金額	未納額	申込人員
前回	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
今回	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
累計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

一、拂込者芳名（敬稱略、數字ハ圓數）
一金五圓也　寄附數男（31－35）
一金[illegible]圓也　岡本理一（19）佐々木一義（19）山内茂吉（19）
一金百九拾[illegible]圓也（寄附）長　長[illegible]
學術研究助成基金報告
一金[illegible]九、六三六圓五四〇
昭和十八年二月十五日

研究の旅……

小林象三

昭和十七年十二月廿八日(月) 私は小樽驛發、京都へむかつた。私の列車は函館驛につくまで私只一人であつた。廣々とした客車にたゞ一人！ 筆者と[illegible]といふ言葉が[illegible]となつてゐる程の今日の汽車旅行にこれはまた何といふ豪奢な大名旅行であらうか。贅澤？ 讀者は次の私の前日の丸井今井百貨店內の旅行案內所においての會話を讀めば、事の次第は明瞭となる事であらう。

筆者「京都の方へ行くんですが、混雜しない汽車を敎へて下さいませんか。」

案內所「先生、時刻が早くてもかまひませんか。小樽驛發の午前五時廿分といふ列車はいかがでせう。」

筆者「何時でもよろしい。混雜しなければ。たゞし[illegible]を起床おたのみしますよ。」

かくて廿八日自宅を出たのが午前四時半、月光のてる路の白き路上を私の荷物をのせた便利屋のソリが走る。[illegible]鈴の響を聞きつゝ私は追つて走つた。詩人ポウのザ・ベルズを想ひ出しつゝ。

「あの列車は、混雜しないでせう」と聞かされながらも、停車驛ではどんな長いキヤーをつくつてゐることかと恐れてゐたが驛內はデゼーテッドといふ形容詞がふさはしい靜寂であつた。

かくて私の汽車は私一人をのせて走り出したのであつた。この列車も次第に乘客を增してきた。大沼驛で漸く相當の乘客が乘り込んだ。そして列車の私の客車內をいつぱいにした。この一大[illegible]は[illegible]のお役人達であつた。

十二月廿九日(火) 急行列車は京都へむかつて走つてゐる。やつと朝食はとれたが、晝食時食堂の外には長いキヤーがついてゐて、なか／＼はいれさうもない。驛の辨當も求められなかつた。小樽から持參のお菓子と林檎で晝食をつないだ。

ふと室內のポウスターをみると「[illegible]」と書いてあつた。幾度も繰返して讀んでみた。意味がよくわかりかねたので、[illegible]

私は停車場や車內のアナウンスに非常にインタレストをもつてゐるが、何と云つてゐるのか聞きとれないものゝ多いのには驚いた。[illegible]をよく訓練してあると思ひながら、かく聞きとれないのは何故なのであらうとあやしみつつ、他の人々に「おわかりですか」と聞いてみた。人々の答は「ノウ」であつた。車掌に聞かせるつもりでアナウンスしてゐるとは思はれない。なぜもつとわかり易く明瞭に發音する人を選擇しないのであらうか。[illegible]のためか、汽車は約一時間おくれて京都驛へついた。

十二月三十日(水) [illegible]へ出かけた。これも旅行の目的の一つである。ここで

（一）「英詩に於ける[illegible]」十六世紀から二十世紀にわたり約十名の詩人の作品中より[illegible]についてのものを探究せるもの[illegible]小論文である。

（二）[illegible]版のシエイクスピアのマクベス約八十頁の精講がついてゐる。特にマクベス中の散文について三頁にわたる一文は私の注意をひいた。シエイクスピアは精神錯亂のアブノーマルな人物には散文で語らしめてゐるといふ。興味あることである。

（三）ダニエル　ヂョーンズ教授の英語のスピーチサウンヅのチアート第二版（一九二四年）この[illegible]のチアートは私にはことの外、興味あるものである。[illegible]ブロードトランスクリプシヨンとナロウトランスクリプシヨンとの對比表、それに第四頁の註(四)における7（ボイ）のオイといふ二重母音のはじめのエレメントは母音の第六と第七との中間のものであると記されてある。[illegible]とに興味あるチアートである。一つにはヂョウンズ教授への敬意のため、一つには上述の記念のため買ひ求めた。

午後[illegible]教授を訪問した。[illegible]ストウヴで京の寒さを忘れることが出來た。[illegible]

[illegible]ヘンリ・[illegible]編の「テニスンの詩集」をみつけ出した。[illegible]テニスンの[illegible]「テニスンの詩」[illegible]まで讀めなかつたのであつた。

[illegible]百二十頁といふ大部の研究がついてゐる。序文の終りに「テニスンはヴイクトーリア時代の偉人であつた。[illegible]」と書いてある。[illegible]

十二月三十一日(木)

昭和十八年一月一日(金)

一月二日(土) この日の朝、思ひがけなく[illegible]電話があつた。[illegible]

一月三日(日) [illegible]

一月五日(火) [illegible]

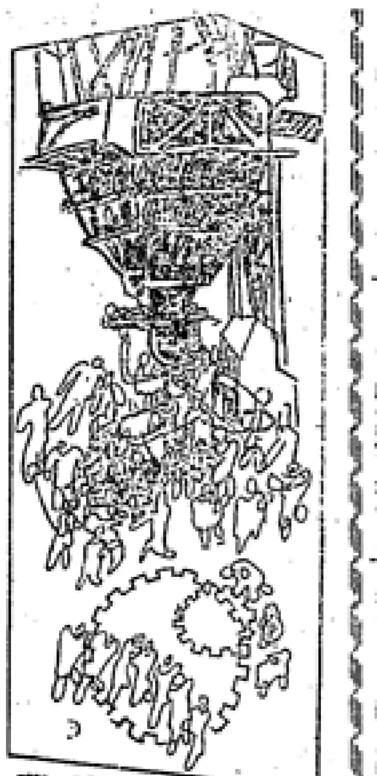
一月六日(水) 親しい友人の[illegible]

一月七日(木) [illegible]

一月八日(金) [illegible]

[illegible]

二、一四—一九四三



學藝

戰爭經濟學の政治性

横岩達志郎

經濟學が始めから相克的[illegible]體系を創設した時は經濟學にある均衡論と[illegible]的な觀點に依つた。一國に於ける需要と供給が其の均衡點に於て價格を構成することは、經濟學が凡て其の[illegible]とするものである。現代經濟學の成立は[illegible]何人も承認せる處である。

現實の日本に於て、經濟學は三つの方向を示すと言はれる。其の一はゴットル教授の流れを汲む政治經濟學の方向であり、其の二は難波田春夫氏の主張せる日本經濟學の確立である。其の三は[illegible]する中山伊知郎教授の戰爭經濟學である。

かゝる三の經濟學の方向が如何に發展の途を開くのであらうか。我々經濟學を學びつゝある者が注目すべき問題であらう。ゴットル教授の流れを汲む政治經濟學は經濟構成體の概念思想を肯定しかゝる構成體が其の全構成體の爲にする[illegible]經濟行爲が如何になるべきかを研究せんとする。我々はゴットル教授の經濟學を學ぶに際し彼の主張する經濟構成體なるものゝ概念把握の段階に於て既に多くの矛盾に當面する。

少くとも經濟科學の目的が人間經濟生活の[illegible]把握を目指すものならば、[illegible]に向つて行はれる現實の經濟現象の把握に出發せなければならない。政治經濟學が其の內部に價値的色彩を濃厚ならしめて來ることが却つて其れ自身の學問の缺點を暴露して居るかの如くである。[illegible]

[illegible]

松尾正路[illegible]

宮崎八幡宮

大平善梧

海光る明るき宿を步み來て宮崎八幡の社殿に到る。

秋の日の光にたちて畏くも醍醐天皇の御額を仰ぐ。

宸翰の御額仰ぎて魂緊り頰に靜かに淚垂れ來ぬ。

戰の秋に仰げる勅額のただ畏かり身內震ひて。

元寇の兵火にかかり宮崎のここの御社も燒かれ給ひき。

蒙古より大いなる敵と今戰ふ國こぞり立て阿修羅となりて。

黑潮の彼方に敵を想ひをり島見えず晴れてただ海と空。

記　錄（四）

松尾正路

我々は古典の中に我々自身の體驗を感じ、その事によつて親しむ。然るに、自ら創造することを命とする青年は、歷史や古典を、彼等の生命の直接現在的な價値としてのみ受け取る。

歷史的な價値が、青年の熱情と自己犧牲の上に築かれてゆくのは當然である。

×

人間の物は唯一本でも無駄に私用してはならぬ、といふ彼らの先祖の生活信條は、決して今日の如き精神運動の標語や項目などで說はれたものではなかつた。日常精神の訓練は、統制階級に限らず、平和な農村や市民生活の裡に於ても、ひそかに嚴しく行はれてゐたのである。

×

すべて無條件的な精神は病的である、とニーチエは云ふ。

頭にさへ中庸といふ條件がある。

×

叱られる者よりも叱る者が美しく見える場合は稀である。

×

自負心の無い謙遜だけが阿諛追從になる。

×

わずかな日光浴にさへ耐へられない孤獨。

×

大なる感激が、時に、富士山の如き優雅な姿を造すといふことは、注目すべき現象である。

×

日本人が自然を愛しむ樣に、西洋人も亦人間の如何なる醜惡な部分、ニュアンスをも見逃すまいと[illegible]。西洋人も亦俳句をつくる。但し、つねに人間について。

×

我々は毎日、家へ歸る度、洋服を脫ぎ捨てる。かういふ我々の[illegible]と感覺の野性を、[illegible]な西洋人は[illegible]。

×

雨の見えない夾雪の山腹、自分の名も肉體も[illegible]、[illegible]に凍えた葉、自力の如く突き刺さつた小鳥、[illegible]、冷酷な絶頂の空間の中に、[illegible]消えて行つた。

×

愛國の勇者、未完のしづけさそこはかとなく舞ひ降り、消えてゆく雪の[illegible]、彼は光を[illegible]、赤裸を[illegible]する魚のやうに、深く呼吸する。

積　雪

渡邊　毅

我等の純粹化。而して現代の[illegible]。

×　×

創る精神とは？ 前者は[illegible]られた制作であり、後者は[illegible]小さな窓に[illegible]された自我を謂ふ。一方で我々は肉體の外を[illegible]しようとし、他方では只の樣式のみを眺めるに過ぎない。

×　×

思想とは力だ。より直截に言ふと、力なる對抗を[illegible]とする現象に外ならない。然らば文化とは？ [illegible]力だ。

×　×

[illegible]が汝を[illegible]して降り頻る。[illegible]の混みの中で[illegible]顏の[illegible]……全てが[illegible]の時計さ。だが、[illegible]スピノザス、[illegible]相だ。

×　×

名[illegible]體を現はす。ダヴィンチの[illegible]、[illegible]された[illegible]は各々異なる[illegible]で[illegible]。[illegible]すれば我々は我々の[illegible]を[illegible]のと[illegible]する。然し名は必ずしも體を現はさぬ。[illegible]は瞬間の[illegible]だ。（二月十一日記）

故鄕の灯

小林隆吉

車窓滑氷ふきては眺む故鄕灯。

寒月に興國車總身の蒸氣吐く。

[illegible]て[illegible]はすでに雪の日々。

[illegible]

雪に[illegible]る街には[illegible]き人々。

前[illegible]く雪山の嶺スキー行く。

スキーの跡數亂れず、[illegible]。

スキー停むや總身の力なし。

大谷先生の大著

マライの經濟資源

西川正巳

商工省、[illegible]の下に[illegible]

[illegible]大谷先生の近著「マライの經濟資源」[illegible]

[illegible]

（三月[illegible]日）

名古屋高等商業學校教授
田中藤一郎著

財務諸表準則の研究

＝企畫院財務諸表を中心として＝

創生社發行　＝六一八〇頁
定價　參圓參拾錢　一月下旬發賣

序文の一

我が國に於ては企畫院準則は先づ財務諸表形式の完成に大なる功績を與へたるものである。即ち從來の諸形式を打つて一團となし其の標準形式を定めたるものにして、まことに我が會計史上一新紀元をなしたるものである。更に形式は內容へと進化すべきもの、いづれの日か、會計經濟史の[illegible]にも[illegible]するものにして、官民協議一步を進めこれら財務諸表の形式から財產評價準則まで掘り下げられて始めてこゝに完きを得るであらう。まことに近の會計發達は目覺しきものなることを痛感すると同時に、會計は最早理論の時代より正に實行の時代に入りたることをしみじみ考へさせられ、時局下會計の重大性をも痛感するものである。本書は我企畫院準則をこれら內外の諸準則と比較して如何なる關係にあるやを具體的事實を基礎として檢討せしものである。

◇執筆者紹介◇

大平善梧氏　東京商大教授（先輩）

小林象三氏　本校英語教授

松尾正路氏　本校佛蘭西語教授

西川正巳氏　本校教授

横岩達志郎君　本校二年生徒

渡邊　毅君　本校二年生徒

小林隆吉君　本校二年生徒

◇各面擔當◇

（一面）大川　山雄

（二面）西野　修治

編輯記

創造といふことは、私にとつて[illegible]。それだけに創造するといふことに、深い關心を持つてゐる。[illegible]

（大川記）

×

偉大なる[illegible]の[illegible]にあつて、戰爭と建設との遂行に[illegible]する今日、新文化の創造の最も強く叫ばれるは必定の事である。入試期を控へ[illegible]學生の[illegible]。若き[illegible]この新文化[illegible]の[illegible]となるべきである。[illegible]

（西野記）

新春を迎へて
新刊書は
合名會社　左文字書店
電話　一七六六番

幹部候補生と綠丘健兒

配屬將校　嵯峨大佐